

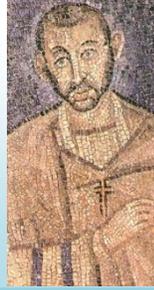
12月7日

## 主教教会博士アンブロシウス

Ambrosius

(334~397.4.4)

～四大教会博士の一人～



「アンブロシウスの

モザイク画」

聖アンブロシウス教会(ミラノ)

ミラノの司教で聖人であり、西方教会の確立に貢献した人物である。アンブロシウスはガリアの総督をしていた父のもと、トリーアで生まれる。父が亡くなった後、母とともにローマに戻り、アンブロシウスは修辞学と法律学を学ぶ。

370年に彼は今で言う県知事であるミラノの執政官になる。そのときミラノ司教をしていたアリウス派のアウクセンティウスが死去した後、後継者をアリウス派から出すかアリウス派から出すかでミラノは大もめにもめるのだが、その時に調停に乗り出したのがアンブロシウスだった。その彼を見て群衆の一人が「アンブロシウスを司教に！」と叫び出し、彼を司教に推してきた。だが彼は受洗をしておらず、断って逃げ回ったがとうとう断り切れず、374年11月30日に受洗し、その八日後に司教職に召される。

司教となった彼は、アリウス派側に立っていたミラノの宮廷の圧力に屈せず、教会の自立性を強く主張した。例えば元老院にあった勝利の女神の祭壇と像をグラティアヌス帝に撤去させたり、また皇帝テオドシウスに対しては、大量の市民を殺害したことについて懺悔を迫った。テオドシウス帝はこれを受け、八ヶ月間教会の門の前に立ち、貧しい服を着て祈りを願ひ断食のときももった。

またアンブロシウスは神学者として東方ギリシア教父の神学に通じており、アレクサンドリア学派の聖書解釈を紹介していく。また彼自身も聖書解釈を行い、説教や禁欲生活を通じて多くの人々に影響を与えた。特にアウグスティヌスは彼によって回心したとされている。

また「皇帝は教会の中にあり、教会の上にはない」と皇帝教皇主義を批判したため、皇帝に圧力を受けるのだが、大勢で教会に立てこもっている間に賛美歌を作り、交互に唱える方法を編み出したとされる。他にも多くの賛美歌の作詞・作曲を行ったと言われ「西洋教会音楽の父」とも言われる。また典礼の重要性を説き、ミサという語を始めて礼拝のために用いた人物でもある。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたは主のしもべ、主教教会博士アンブロシウスの教えによって公会を照らして下さいました。どうか天の恵みをもって公会をますます豊かにし、忠実な証びとを起して下さい。その生活と教えに倣い、わたしたちがすべての人に救いの真理を宣傳伝えることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン